

私を変えた本

チャン・イー・タン

皆さんこんにちは。今日は私を変えた本についてスピーチをしたいと思います。私を変えた本は、「いつかすべてが君の力になる」という本です。皆さんこの人を知っていますか。この本を書いた人は、常盤祭に来てくれた梶裕貴という声優さんです。私は、14歳のときにその本に触れ、彼の出演作品を見て彼を尊敬するようになりました。

当時の自分は、まだ将来の道がはっきりせず、自分が何をしたいのかわからなくてずっと迷っていました。そんなときに姉が買ってくれたその本は、私に留学するきっかけを与えてくれました。その本の内容は、中学生の彼が声優を目指してからデビューを果たし、人気が出るまでの人生について語ったものです。その本を読み始めたとき私は当時の梶さんと同じ14歳で、自分の将来像について悩んでいた彼が重なって見えました。中学2年生の私は将来やりたいことが見つからず、すでに進路が決まっている周りの友達を見て、焦っていました。自分は将来どんな仕事に就きたいのだろうか、どんなことを学びたいのだろうか、なにも思い浮かばなかった自分は、なんとなくの気持ちでその本を読み始めていました。

梶さんはデビューするまで、数々のオーディションで才能ある同期と競い、アルバイトをして生活費をまかない、次の仕事が決まるのもいつになるのかわからないような状況だったそうです。それでも彼はその道で成功しました。そこまで一生懸命になれるものが自分にはあるのだろうかと自分に問いかけました。

そこで、すでに生活の一部にもなっていた日本のアニメや漫画を思い出しました。自分の将来を考えるきっかけにもなった日本の文化をもっと学び、梶さんのように、夢中になれるものを日本で見つけたい、そう思うようになりました。

そんなとき、私の姉も日本に留学することになり、そのための勉強を始めていて、自分もやってみようと思うようになりました。両親や友人のいる自分の国にとどまり、進学する道もありましたが、日本の文化を学ぶために留学することを決意しました。もしかしたら自分も、自分だけの夢を見つけ、梶さんみたいに成功を手にすることができるかもしれない、そう自分を勇気づけました。自分が尊敬する人が頑張っていると思うと、自分も励まされたような気持ちになり、努力することができます。

実際に、小学校1年から独学で日本語を学び始めました。はじめは日本語の読み方や聞き方を少しずつ勉強し、中学1年になってからは日本人と会話の練習をしました。学校で日本語を学んでいることを話したら、興味持ってくれた人がいて嬉しくなりました。最初は絵本を読むところから始めましたが今では日本人とコミュニケーションを取れるようになりました。

今の梶さんは、多くの人々が名前を知るほどの有名な声優さんとなりましたが、その背景には多大な努力と挫折があります。昔も今も変わらず、「自分はまだまだだ」という彼に私自身もそうありたいと思いました。日本で留学し、いろんな人と出会い、様々なことを学び、成長していきたいです。以上です。ご清聴ありがとうございました。